

報告書〔6〕分析結果及びフローシート

2. 水質試料(5. エンドスルファン)

分析実施機関名	機関コード	国際的な認証の取得 注1)	1. ISO 9001-9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025 (ガ1725) 4. なし
分析主担当者名	分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(試料数) 検体

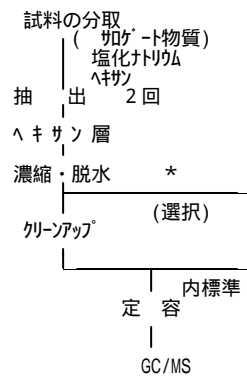
注1) 複数回答可

注2) 分析結果 (μg/l)	標準偏差 (μg/l)	測定回数 (回)

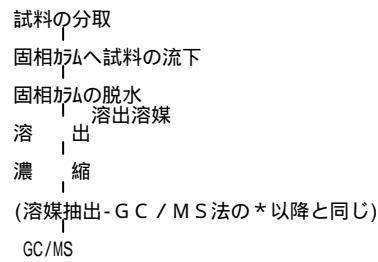
分析開始日	月	日
分析終了日	月	日

注2) 有効数字3桁で記入する。なお、2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。また、実施要領5(1)の希釈方法に従って調製した分析試料中の濃度を記入する。
なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意してください。

< 溶媒抽出-GC/MS法 >



< 固相抽出-GC/MS法 >



< 分析法等 >

分析法	1. 溶媒抽出-GC/MS 2. 固相抽出-GC/MS 3. その他()
クリーンアップ	1. フリクション 2. シリカカラム 3. 実施しない
試料量	() ml
濃縮方法	1. KD 2. ロータリバポレーター 3. その他()
最終定容量	() ml

< 溶媒抽出条件 >

抽出溶媒の種類	1. ヘキサン 2. その他()
抽出回数	() 回
溶媒量	() ml / 回

< 固相抽出条件 >

固相の種類	1. カラム型 2. ディスク型
充てん剤種類 粒径 量	1. ポリスリレン系 () μm 2. ポリメタクリレート系 () g 3. ODS系 4. その他()
溶出溶媒	1. 酢酸メチル 2. アセトン 3. その他()
脱水方法	1. 遠心分離 2. 吸引 3. その他()

< 分析条件 >

注入量	() μl
機器型式(GC)	メーカー() 型式()
機器型式(MS)	メーカー() 型式()
測定質量数 GC/MS	()
装置型式	1. 単収束 2. 二重収束 3. 四重極 4. イオントラップ 5. その他
イオン検出法	1. SIM法 2. スカニング法
カラム型式 カラム形状	メーカー() 型式() 内径() mm 長さ() m 膜厚() μm
カラム昇温条件	初期温度 _____ 保持 _____ 分 / 分 _____ ~ _____ / 分 _____ ~ _____ / 分 最終温度 _____ 保持 _____ 分
キャリアガス条件	1. N ₂ 2. He 3. その他 () ml / 分
試料注入部温度 試料注入方法	() 1. スプリット 2. スプリットレス 3. コールドオンカラム

< 検量線の作成等 >

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
内標準物質種類名	1. 4-クロロトルエン-d ₄ 2. ナフタレン-d ₈ 3. ビフェニル-d ₁₀ 4. フェナントレン-d ₁₀ 5. フルオランテン-d ₁₀ 6. クリセン-d ₁₂ 7. ベリレン-d ₁₂ 8. p-ターフェニル-d ₄ 9. その他()
添加量	() ng
試薬(標準原液)	1. 購入 2. 自作 1. の場合メーカー()

体	検量線	作成点数() 範囲() ~ () 単位 1. ng(注入量) 2. mg/l(濃度) 最高濃度の指示値()
	試料溶液	指示値()
	空試験	指示値() 注3)
体	検量線	作成点数() 範囲() ~ () 単位 1. ng(注入量) 2. mg/l(濃度) 最高濃度の指示値()
	試料溶液	指示値()
	空試験注	指示値() 注3)
ガジェット物質の使用	1. 使用していない 2. 使用する ガジェット物質種類() 添加量() ng	
検出下限値	() μg/l	

注3) 水について、試料と同様に操作する。

< 分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点 >

試料溶液の調製について	-----
測定方法について	-----
分析全般について	-----

< 計算式 >

--

